

リエぞん



〈編集・発行〉
独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
<https://nara.hosp.go.jp/>

Liaison

vol.48

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

令和4年1月

医療関係者の皆様へ 「リエぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで付けました。

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します
患者第一、安心安全な先進医療を提供します

令和3年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした
「面倒見のいい病院」の機能を高める



当院の東側から撮影
撮影 永田 清 統括診療部長

Contents

- | | | | |
|-------------|---------|-----------------------|----------|
| ● 孤高の虎をめざせ！ | ————— 2 | ● 各部門新年度の抱負 | ————— 6 |
| ● 部門紹介 | ————— 3 | ● 連携施設のご紹介コーナー VOL.10 | ————— 14 |

孤高の虎をめざせ！

院長 平林 秀裕



新年あけましておめでとうございます

令和4年は壬寅の年である。陰陽五行説によると「陽気を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年ということである。

最近2年間は、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として、入院はもとより、抗体カクテル療法、発熱外来、ワクチン接種と国民の命を守るために尽力してきたが、今年こそは、本来の任務を全うする躍動の1年にしたいものである。

さて地域医療構想というのがある。これは超高齢社会にも耐えうる医療提供体制を構築するため、2014年（平成26年）6月に成立した「医療介護総合確保推進法」によって制度化されたもので、人口推計をもとに2025年に必要となる病床数を①高度急性期、②急性期、③回復期、④慢性期の4つの医療機能ごとに推計した上で、地域の医療関係者の協議により、病院を再編する取り組みである。かたや当院は、結核医療や重心、筋ジストロフィーなどの療養介護事業などの政策医療、てんかん・パーキンソン病・難治性疼痛・痙攣などの機能的脳疾患の外科的医療を含む集学的医療、重症喘息に対する気管支サーモプラスティなどを行う、前述のカテゴリーには属さない特殊な病院である。

当院のモットーは、「呼吸器疾患と神経疾患を中心とした『面倒見のいい病院』」であり、他の病院が担わない医療分野を行うことで、地域医療を支えている。特に昨年は、奈良県てんかん診療拠点機関に指定され、「てんかん患者さんが、身近で質の高い医療・福祉を受けられる」体制づくりの取り組みを今年は一気に広げる。

また老朽化した結核病棟の建て替えを機に、新型コロナウイルス感染症などの新興感染症対策のできる施設に取り組めたらという夢もある。

重心医療では、昨年より居宅訪問型児童発達支援事業を開始しており、慢性呼吸器疾患、各種神経難病を中心とした訪問型診療を当院が担うべき医療に加えることも考えている。

とかく日本では、「特殊」というのは、あまり良い意味には使われないが、私達は、特異な医療分野における「孤高の虎」をめざしたい。



部門紹介

療育指導室長 佐村 知哉

療育指導室

療育指導室は、児童指導員5名、保育士14名、事務助手1名の20名で、重症心身障害児者、神経筋・難病患者様への福祉支援を提供する部門です。

当院では、児童福祉法・障害者総合支援法等に基づき、長期入院（18歳未満：措置・障害児入所支援・18歳以上：療養介護事業）、短期入所事業、通所支援事業（児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・生活介護事業）、居宅訪問型児童発達支援事業と様々な福祉事業を実施しており、行政機関より、福祉サービス費が当院に支給されます。

そのため、福祉サービスの提供は必要不可欠であり、患者様及び患者家族様への療育・行事支援、行政等への福祉事業に関わる手続き支援（福祉事業に関する証書、成年後見人申し立て等）、福祉・医療・教育関係機関（行政、病院、特別支援学校、他事業所等）との患者様の利用調整、患者様の新規及び修理にかかる補装具調整、福祉制度規定に基づく運用検討及び構築、ボランティアの運用調整、行政機関等へのアウトリーチ等を通して、福祉サービス全般に関わる患者様の福祉環境調整を担っています。

新型コロナウイルスへの感染予防として、療育・行事活動をグループ・個別化する等の徹底を行い、「療育」の概念を大切にして、患者様の『楽しみ』を意識した支援をしています！！

【児童指導員の役割】

児童指導員は、教育学、心理学、社会学（社会福祉学）をふまえ、入院児者・在宅患者とその家族の支援を行う立場にあり、教育学、心理学、社会学（社会福祉学）を基礎として、発達や指導について役割を果たすこと。また、家族について、社会学（家族社会学、人権思想等々）の視点から、家族のプライバシー等に配慮・尊重し、より望ましい福祉の支援が行えるよう、関係行政機関との間においても密接な関係を保ち、適正なケースワークに努めること。

【保育士の役割】

保育士は、保育学を基礎とし、入院児者・在宅患者の成長、発達について、遊びや音楽などを通して保育する立場にあり、一人一人の発達段階や発達課題に即した、遊びの創意工夫に努めながら、常に充実した保育を行うこと。また、家族については、親の立場、家族の状況に配慮し、且つ身近な接し方に留意するとともに「安心」と「配慮」をふまえた支援に努めること。



【長期入院（措置、障害児入所支援、療養介護事業）】

当院は、重症心身障害児者病棟2病棟（100床）、神経筋・難病病棟1病棟（50床）保有しており、福祉事業に基づき、重症心身障害児者病棟に97名、神経筋・難病病棟に30名ご入院されています。

重症心身障害児者病棟には、重度の知的障害と重度の身体障害を重複されている患者様のご入院されていますので、『発達』に着目した療育支援、神経筋・難病病棟には、主に筋ジストロフィー患者様のご入院されていますので、『やりがい』に着目した療育支援を提供しており、患者様のストレングスを意識しています。

また、障害福祉施策の動向がめまぐるしく変化していく中で、利用契約書類・個別支援計画書の運用、虐待防止に係る運用構築についても対応しています。

スウェーデンハンドセラピー



ムーブメント



国立病院機構4病院でのサークル活動



家族交流会



ペッパーとの交流



リモート音楽会



療育参観



【短期入所（空床型）】

当院では平成16年より短期入所事業を実施しており、ここ数年、奈良県内の他事業所と比較すると、一番の実績があり、常に3床のベッドを空けて、積極的に受け入れています。

運用構築については、福祉制度の規定及び院内でのマネジメントが必要であり、利用調整（予約、新規利用希望者の受け入れ、緊急時の利用受け入れ）、他事業所との連携、入院セットの導入調整等の業務を担っています。

また、令和3年度の障害福祉サービス報酬改定により、短期入所事業の利用中に療育支援が提供出来るようになりましたので、患者様の障害状況に応じた療育支援を提供しています。



運用についての検討会議

短期入所事業 ご利用のしおり



奈良県人権センター

障害者センター

TEL 0742-45-4591 (代)

FAX 0742-45-0512

【通所支援事業（児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、生活介護事業）】

当院では平成26年より、通所支援事業「ぽかぽか」を立ち上げ、約10名/1日の患者様にご利用されています。

運用構築については、短期入所事業と同様に、福祉制度の規定及び院内でのマネジメントが必要であり、利用調整（予約、新規利用希望者の受け入れ等）、他事業所との連携等の業務を担っています。

また、長期入院患者様と同様に、患者様の発達に着目した、ストレングスを意識した療育・行事支援を提供しています。

なお、現在改修工事中ですので、改修後は今以上に多くの患者様にご利用頂けるよう尽力したいと考えています。

スヌーズレン



院内散策



【居宅訪問型自動発達支援事業】

当院では令和3年7月より、居宅訪問型児童発達支援事業「ぽかぽか Step」を立ち上げ、現在、12名の方にご登録頂いていますが、約30件の居宅を訪問し、患者様への療育支援及び患者家族様への相談支援を実施しています。

地域は、奈良市、天理市、生駒市、大淀町、吉野町等と、非常に広範囲で居宅訪問させて頂いていますが、人工呼吸器を装着されている等、医療度が高い患者様が多い状況です。

新規利用から、患者様のアセスメントのためにご家族から十分な聞き取りを行い、家族の希望も含めながら、患者様の障害状況等に合わせた療育支援を提供しています。

また、3歳までの低年齢の方が多く、社会資源との結びつきが希薄であるため、他事業との繋がりを意識して家族とやりとりすることで、当院で実施している通所支援事業「ぽかぽか」をご利用いただくケースもございます。

音楽療育



相談支援



ふれあい



ムーブメント



各部門新年度の抱負



【脳神経外科】

脳神経外科全般の治療を行います。とくに「てんかん」「パーキンソン病」「振戦」「難治性疼痛」「痙縮」などの神経難病を治療する機能的脳神経外科や手足のしびれに対する頸椎手術などに重点を置き、患者さんのQOLを向上させる治療に積極的に取り組んでいます。

機能的脳神経外科手術には、脳深部刺激療法（DBS植え込み術）や視床下部破壊術、淡蒼球凝固術などがあります。

パーキンソン病・振戦・痙縮などに対する機能脳神経外科、てんかんの治療、脳卒中・頭部外傷亜急性期治療など外科手術からリハビリにいたるまで幅広い治療を行っています。薬だけではコントロールしにくい時、急性期治療が終了しても様々な問題が生じる時など当院で治療可能な病態であれば、『面倒見がいい』をモットーに丁寧に相談に応じ、追加の適切な治療をいたします。

【内科・呼吸器内科】

当院は結核の中核病院であり入院が必要な場合は結核病棟で、入院の必要がない場合は外来で治療しています。結核の疑いがある患者さんにはまず喀痰検査を行い、診断がつかなければ気管支鏡検査を行っています。結核の疑いで御紹介いただいた患者さんが結核以外の疾患と判明することもまれではありません。当院では結核以外にもさまざまな呼吸器疾患の診療を行っています。近年増加が著しい肺非結核性抗酸菌症（肺MAC症）に対する経験も豊富で、標準的な治療に加えて新しい吸入療法（リポソーム化アミカシン）も開始しました。

気管支喘息については吸入指導を行いアドヒアランスの向上に努めています。難治性喘息に対しては生物学的製剤を投与しています。また当院は奈良県内で気管支サーモプラスティ（気管支熱形成術）を施行している数少ない施設の一つです。気管支サーモプラスティは、気管支鏡で電極付きのカテーテルを気管支に挿入し気管支壁をあたためる治療です。患者さんの病態に応じて治療法を選択しています。

気管支鏡検査では、仮想気管支鏡画像を作成してガイドシース併用気管支内超音波断層法（EBUS-GS）を用いて検体を採取し、診断率の向上に努めています。肺癌と判明した場合にはバイオマーカーを検索し、ガイドラインに沿って治療しています。

COPDなど慢性呼吸不全の患者さんにはHOT導入や呼吸リハビリを行っています。当院では呼吸ケアサポートチーム（RST）が活動しており、多職種で診療にあたっています。

睡眠時無呼吸症候群については専門外来にて検査やCPAPの導入および管理を行っています。

当院では呼吸器ホットライン（0742-45-4594、平日 8:30～17:15）を開設しています。呼吸器疾患でお困りのことがございましたら当科の医師が対応いたします。

当院は新型コロナウイルス感染症の重点医療機関であり、軽症と中等症の診療を行っています。

現在ひとつの病棟をコロナ病棟として運用している影響で病床数に制限がありますが、地域医療に貢献できるよう努めてまいりますので今後ともよろしくお願いたします。



【脳神経内科】

脳神経内科の慢性期の疾患を、特殊治療をくみあわせて治療しています。

以下の4本柱からなり、6名の医師が協力しあって担当しています。

《神経難病》

パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの患者さんの、ステージに応じた治療をしています。また病態に沿ってリハビリパスを適応し、改善効果をあげています。

《筋疾患》

筋ジストロフィーの患者さんが安心して生活でき、PCなど使い充実したADLを保てるよう、高い技術で治療しています。今後ロボットやAIの導入など開拓分野が広い領域です。

《てんかん》

奈良県てんかん診療拠点機関として、小児神経科が中心にてんかん治療にあたっています。24時間以上にわたる脳波ビデオモニタリングが常時稼働し、脳神経外科が迷走神経刺激法の治療をおこなうなど、専門性の高い治療を行っています。

《運動異常症・末梢神経疾患》

パーキンソン病やジストニア、脳卒中後の痙縮、慢性炎症性脱髄性ポリニューロパチーなどを、生体が発する電気信号をたよりに治療しています。脳神経外科と協力体制で深部脳刺激療法をおこなったり、ボツリヌス治療、免疫グロブリン治療などおこなっています。

新年度の抱負ですが、現地参加の頻度が高くなってくると予想されるのでできるだけ学会に参加して技術を磨き、論文も投稿してさらに広い知識を得るよう、6名でがんばりたいと思います。



【耳鼻咽喉科】

平素より耳鼻咽喉科診療にご協力いただきありがとうございます。

現在、当科では従来からの耳鼻咽喉科一般外来診療、副鼻腔炎や良性疾患に対する手術治療に加え、最近では、言語療法士、認定看護師、栄養士、薬剤師で構成する摂食嚥下チームによる活動を開始しました。嚥下診療では、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を用いた嚥下機能評価を行い、誤嚥性肺炎や神経難病に対する嚥下障害の診療にも積極的に取り組んでいます。また、十分に適応を検討した上で、嚥下機能改善術（喉頭挙上術、輪状咽頭筋切除術など）や誤嚥防止術（喉頭全摘術、気管喉頭分離術など）などの手術も行っています。

副鼻腔炎、中耳炎、咽喉頭炎、めまい、頸部腫瘍などに代表される耳鼻咽喉科疾患に限らず、嚥下障害を訴える患者様に対しても医療を提供できればと思います。

今後も、地域に貢献できる良い医療が提供できるように努めますので、引き続きよろしくお願い致します。

【整形外科】

整形外科では、骨折患者の手術や骨粗鬆症外来を行っています。

院内ではリハビリスタッフと多職種カンファレンスを行い、患者様の早期退院に向けスタッフで情報共有しております。また、重症心身障害児（者）病棟では、骨折カンファレンスを2回/月行っています。

新年度も気負わずいつもの診察を続けていきたいと思っています。

【小児神経科】

主に、小児を中心とした「脳・神経」の病気を診療しています。

最近では、小児だけでなく、成人・老人の「脳・神経」の病気もすこしずつ勉強していて、幅広く、皆さまのお役に立てる医師になりたいと思っています。

しっかり食べて、よく寝て、「毎日元気に診療できること」が新年度の目標です。



【外科】

当科では、消化管・肝胆膵の消化器疾患および乳腺疾患を中心に、一般外科としてヘルニア・肛門疾患なども対象とした外科診療を行っています。手術適応や手術内容は、エビデンスに基づき常に良質で最適な医療を提供できるよう努めています。マンモグラフィーによる乳がん検診に加え、入院での大腸ファイバーの検査も行っております。入院、通院患者様の褥瘡対策、処置を皮膚・排泄ケアチーム、NSTチームとも協力して行っております。より質の高い医療を提供できるよう努めてまいりますので今後ともよろしくお願いいたします。

【ペインクリニック外科】

ペインクリニック外科では、がんを含め様々な疾患による痛みに対し神経ブロック療法を中心とした治療を行っています。主に三叉神経痛、頸椎、腰椎椎間板ヘルニアや、脊柱管狭窄による上下肢痛、帯状疱疹による四肢、体幹の痛みなどの治療を多く行っており、神経ブロック抵抗性の痛みには低侵襲手術（椎間板ヘルニアに対する経皮的手術、脊髄刺激療法）も行っています。今後、がん性疼痛、難治性疼痛に対するオピオイド髄注療法などを開始する予定です。

【看護部】

「一人ひとりの職員が品格とプライドを持って看護を実践するとともに、看護実践を可視化する」

「看護を語り合い、やりがいを持って働くことができる職場づくりを目指す」

2022年は寅年です。本来の干支では壬寅（みずえのとら）で、「生まれる」「延ばす・成長する」という意味を持つそうです。特に2022年は、36年に一度の「五黄の寅（ごおうのとら）」で、十二支と古代中国の民間信仰である九星を組み合わせたもので、九星の「五黄土星」と十二支の「寅年」が重なると、五黄土星の「周囲を圧倒するパワー」と寅年の「強い正義感と信念、行動力」を合わせもつ強い運勢と考えられています。

その寅年にちなんで、看護部は一丸となって、未来を見据えて、寅のように「強い信念と行動力」をもって、新しいことに勇猛果敢にチャレンジし、大きく飛躍できる1年にしたいと思います。

職員一人ひとりが自分の実践している看護を患者さんの視点に立って見つめ直すこと、そして、それぞれの実践している看護を言葉で発信し、目に見える形にすることを意識し、看護のやりがいにつなげたいと考えています。

そして、「面倒見のいい病院」として、患者さんに当院を選んでいただけるよう、他部門と連携しながらともに、目標に向かって前進していきたいと思いますので、新年度もどうぞよろしくお願いいたします。

<2022年度 各部署の抱負>

1 A病棟：「エビデンスに基づいた看護実践」

1 B病棟：「患者中心の看護の充実」

患者の生活の質向上のため、患者の様態にあった看護の実践を強化していきたい。

2 A病棟：「神経難病患者のQOLを考えた患者・家族を支える看護の提供」

2 B病棟：「患者の声（思い）を大切にする看護」を目指す

そのために、ベッドサイドカンファレンスや退院カンファレンスを充実させ看護計画へ反映する。

3 A病棟：患者カンファレンスや倫理カンファレンスの充実を図り、患者中心の看護を実践する

南病棟：「最新の感染症医療に対応し、安全・安心のできる看護の提供」

外来：☆患者さんの間違いやお薬の間違いを起こしません！

☆患者さんが退院後に安心して生活できるように支援します！！

☆入退院センターのスムーズな運営に努力します！！

令和4年も職員一同、精一杯がんばります。よろしくお願いします♡♡

手術室：患者にとって安全・安心な手術室看護を提供するために、手術室看護実践能力の強化と手術室看護師の育成を図っていき
たい。



【薬剤部】

当院薬剤部は少人数ながら、調剤や無菌調製、病棟薬剤業務はもとより、治験やチーム医療も積極的に行っております。

病棟薬剤業務は結核病棟と混合病棟（脳神経外科、神経内科、耳鼻咽喉科、整形外科、呼吸器内科等）の2病棟に薬剤師が常駐し、持参薬確認は、短期入所を含め、全ての病棟で実施しています。

チーム医療では、てんかん、パーキンソン病、NST、ICT、AST、褥瘡、摂食嚥下などのチーム医療に参加し、多職種と積極的に意見交換を行っています。

PBPM（プロトコールに基づく薬物治療管理）にも積極的に取り組んでおり、各種疑義照会の代行やドバミンテスト時の処方管理、特殊な吸入治療の導入支援なども行っています。

また、地域の先生方とともに平城漢方研究会（年4回）や吸入指導勉強会（年2回）を開催しており、近畿国立病院生涯研修センター（KLEC）の研修単位の取得も可能となっております。

新年度は、地域の先生方との連携をさらに深めて、質の高い医療を提供できるよう、一同日々精進してまいりたいと思います。



【放射線科】

“業務の効率化と有用な医療画像構築ならびに仕事も個人もダイエット！”です。

個人（当科7名）それぞれの抱負と目標（7つ）（順不同の内容重複！）

- ・ 業務と労働環境の整理・整頓
- ・ 検査室の環境整備
- ・ 質の高い医療の提供
- ・ 新規導入機器（MRI・CT）の画質向上
- ・ 丁寧な言葉遣いによる患者満足度の向上
- ・ 技師個人のスキルアップ
- ・ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰（しつけ））の徹底

新年度も躍進したいと思います。

【リハビリテーション科】

昨年4月に赴任し、あっという間に年が明けました。

2021年12月1日、リハビリテーション科は新年度に向けて3つのプロジェクトを立ち上げました。

1つめは、リハビリテーション診療の質の向上をあげ、当院の特性を活かす取り組みとしてDBS（脳深部刺激療法）チーム、BTX（ボツリヌス療法）チーム、自動車運転免許適正チームを理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理療法士で構成し活動します。

2つめは、今年4月の診療報酬改訂に向けて監査対策をあげ、客観的に「面倒見の良い病院」として評価されるための取り組みとして、多職種カンファレンスチームを理学療法士、作業療法士、言語聴覚士で構成し活動します。

3つめは、教育方針の確立をあげ、新人教育チームを理学療法士、作業療法士、言語聴覚士で構成し活動します。

各チームには全スタッフが漏れなく配属され、定期的に進捗状況をリハビリテーション科ミーティングで報告します。

未だ先行きが不透明な新型コロナウイルス感染症流行ですが、リハビリテーション科スタッフ全27名でこの難局に立ち向かい、次世代へ継承して行きたいと思います。

これからも、奈良医療センターリハビリテーション科運営に、ご理解ご協力をよろしくお願い致します。



【研究検査科】

昨年度より続くコロナ禍において、様々な制限や規制などが設けられてきました。

そのような中で当検査科においても、感染対策などのルール変更や新型コロナ関連の新規項目実施など、可能な限り対応を行ってきました。

新年度は、コロナ後も視野に入れつつ患者様の視点に立った医療サービスの提供ならびに、臨床の要望へのより一層の対応を目指したいと思います。

【栄養科】

栄養管理室は患者さんの栄養改善を図ることを目的に、チーム医療の一部門として業務を担っています。主に、入院患者さんの栄養管理と食事提供、入院および外来での栄養指導や相談を行い、食事においては、季節感や行事を取り入れたメニュー作りを心掛け、患者さんのQOL向上や、退院後の食生活の改善にもつながるようなサポートができるよう努めております。

また、職種横断的なチーム医療の普及が進む中、NST（栄養サポートチーム）をはじめとする院内の様々なチームにも関わり、そのような場でも専門性を生かした活動を展開しています。地域連携として、患者さんの入院中の栄養情報を他施設様へ滞りなくスムーズに連携できるように栄養サマリーを用いた連携にも力を入れております。

今後も栄養管理を行う上で最も大切な「おいしい食事の提供」を常に念頭に置きながら、栄養状態の評価をふまえた栄養ケアを推進していくと共に、栄養に関する教育や地域活動にも貢献していきたいと思っております。



《正月給食写真》

【事務部】

コロナ感染症の影響で長らく中止していた、地域住民の方を対象とした「さくら健康祭り」や「市民公開講座」などのイベントや講演会の充実に取り組みます。今後のコロナ感染症の状況も考慮しWEBによる開催など、多くの方にご参加いただけるよう工夫して開催する予定です。自治会や関係施設のご理解、ご協力をお願いいたします。

また、近隣の医療従事者等を対象にコロナワクチン接種を行うなど、感染症の収束に向けて、職員一同、

取り組んで参りますのでよろしくお願い申し上げます。

【療育指導室】

我々、療育指導室は福祉専門職として、質の高い療育支援を行います。

特に、病院と地域、福祉事業毎等での「繋がった支援」を意識し、患者様とご家族が、安心して楽しく生活できる環境を実現します。

昨年7月に指定を受けた、「居宅訪問型児童発達支援事業」の開設により、以前よりも「繋がった支援」が熟成されているため、院内外においてのアクティブなソーシャルアクションに繋がたいと考えています。

また併せて、今までの枠に捉われない、福祉事業の展開を目指したいと考えています。



【地域医療連携室】

地域医療連携室は、「面倒見のいい病院」の病院目標を掲げ、日々入退院に際して患者・家族と対応させて頂いております。昨年は退院前後訪問の実施に努め20件以上行い、地域で暮らす患者・家族を支えるということを再度見つめ直す機会になりました。

新年度は入院センターの充実に伴い、早期から患者・家族に関わり、退院支援の必要な患者に必要な支援を提供し、住み慣れた地域に患者が戻ることが出来るようにしたいと思います。また、てんかん診療拠点機関の認定を受けましたので、当院が中心となり奈良県内のてんかんネットワークを作り、軌道に乗せたいと考えております。



(医)森仁会 森田内科循環器科クリニック

森田 隆一院長

当院は1995年に奈良市宝来の地で開院しました。今年28年目を迎えます。現在の診療は内科・循環器内科中心で、特に高血圧や心臓病、不整脈などの循環器領域を専門としています。一方、地域のかかりつけ医として、健診や予防接種、産業医、学校医、介護保険関連、定期往診や在宅医療の要望にも私の力の及ぶ限りお応えしています。当院の基本理念は、患者さんの視点でわかりやすく身近な医療を提供する事です。今後ますます進んでくる“超高齢化社会”を念頭に当院は、診療所・病院の連携や医療・介護の連携を図りつつ、院内・院外を問わず各々の専門職のメンバーがその特性を活かしながら、患者さんを中心としての“責任を持って有機的に連携するチーム医療”の提供をめざしています。

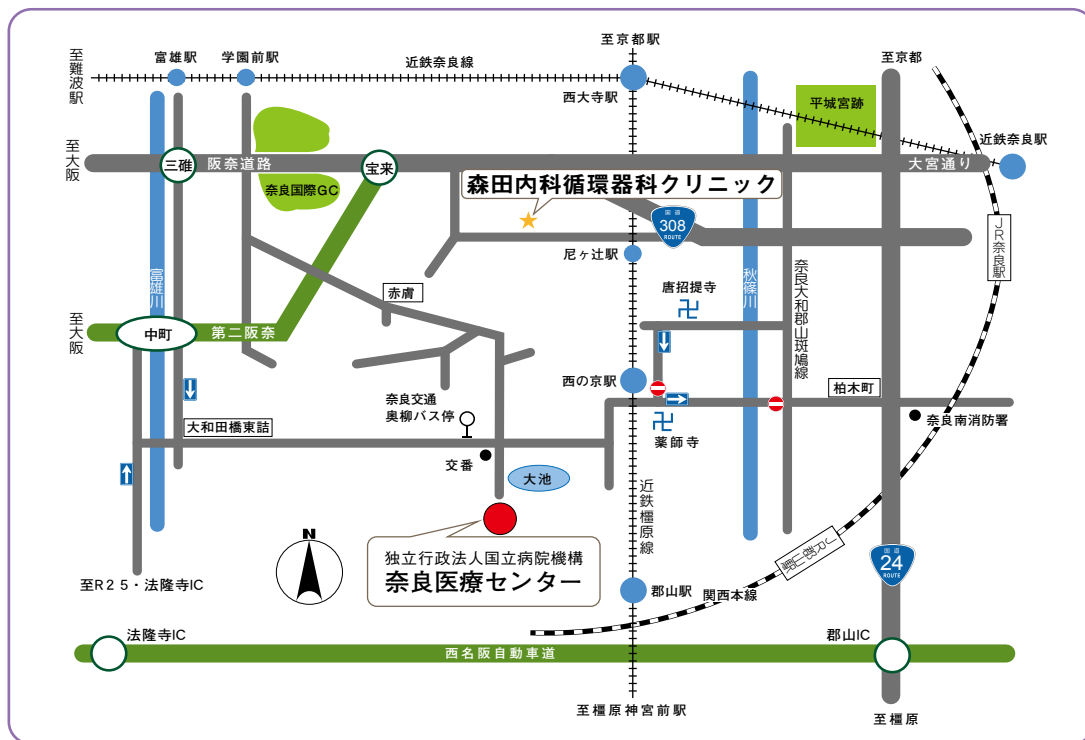
私の好きな言葉は『熱意、誠意、創意』です。

診療科目：内科・循環器科・小児科・外科

診療時間：月・火・木・金・土 午前診 9：00～12：00
月・火・木・金 午後診 17：30～19：30

休診日：水・日・祝日

TEL：0742-47-5177 FAX：0742-93-7287



独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
地域医療連携室

〒630-8053
奈良市七条2丁目789
TEL.0742-45-4591 (代表)
TEL.0742-45-1563 (直通)
FAX.0742-45-4901 (直通)